

## 良成親王にまつわる伝説

矢部村で語り継がれる良成親王にまつわる伝説の中から主なものをご紹介します。

### 軍用金

大杣公園の南向かいに、征西府の御用倉があったという「三倉」と呼ぶ集落がありました。そこには、軍用金にまつわる次のような話が伝わっていました。

「朝日当たり夕日当たるそのしるしに二つ葉の南天」

つまり、軍用金を埋め二つ葉の南天を目印として植えたということです。この集落の御倉屋敷というところに二つ葉の南天があったと伝えられていますが、いまだにその場所は分かっていません。

### 鳴かぬクツムシ

良成親王は南朝の力を盛り返そうと奮戦されましたが、幕府が派遣した探題今川了俊の軍勢に菊池本城を落とされて以降振るわず、奥八女矢部の大杣を在所とされました。ある夜のこと、クツムシがガチャガチャとやかましく鳴きたてました。それが敵方の馬の響の音に聞こえた良成親王は目をカッと見開いて「だまれ！」と一喝されました。それ以来大杣ではクツムシが鳴かないと伝えられています。

### 王塚山

三倉集落の東方に「大野塚」と呼ぶ美しい丘がありました。良成親王が毎年元旦に日の出を拝まれたところです。はるか東方の吉野御所を拝し、父君・母君を思い、都恋しさに身の不遇を嘆かれたと伝えられています。「王塚山」といわれ、今は「大塚山」と書きます。

### 王様の墓

五條頼治は良成親王を葬り、堂宇を建てて隠しました。村人たちはもちろん腕白小僧も「王様の墓」といって、堂宇には決して上がりませんでした。時々旅の者がこの堂宇に泊まりましたが、一晩中剣の音や木を倒し竹を割るような音がして眠れませんでした。しかし、土地の者が堂宇に入ると、その音はぴたりとやんだとのことです。

### 王塚

大塚山に王塚と呼ばれるひとつの塚がありました。金の鶏と金の杯が埋まっているというわさがありました。明治の初め、土地の炭焼きが秘かに掘ったが、中をのぞく前に日が暮れてしまいました。その夜、炭焼きの枕元にたくさんの家来を連れた気品のある将が現れました。おどろいた炭焼きは、翌日すぐに塚を埋めもどし、ふもとから自然石を運んで建てたと伝えられています。



大塚山

## 良成親王とその御墓所

ごぼしよ

八女市文化遺産回遊マップ  
南北朝シリーズ③

九州の統一を成し遂げた懐良親王は、正平16年(1361)、大宰府に九州征西府を開き所期の目的を果たしたことから、京都へ戻って活動することを企図するとともに、自分の後継者となる人物の派遣を吉野に要請しました。これに応じて派遣されてきたのが懐良親王の甥で後村上天皇第6皇子の良成親王です。

良成親王は、天授元年(1375)ごろ、征西将軍を継承して、その任につき、菊池武朝とともに、九州探題の今川了俊率いる武家方と激しくせめぎ合いを繰り返しました。天授4年(1378)の託磨原の戦いでは勝利したものの、その後の形勢は利あらず、宇土や八代に拠点に移さざるを得ませんでした。元中8年(1391)9月の八代陥落後は、筑後国の矢部(現八女市矢部村)を守っていた忠臣の五條氏が拠城とし

ていた高屋城に拠点を移し、その後大杣を御在所としました。五條家蔵親王最後の書状(1395年)には「御在所矢部大杣」と記されています。

南北朝は明德3年(1392)に合一していますが、良成親王はその後も南朝年号の使用を続けました。南朝の気概を持ち続けた良成親王ですが、大杣を御在所として後間もなく、30代の若さで薨去されました。

良成親王の御墓所は、五條家と矢部の人々により守り続けられ、明治11年(1878)には宮内省(現:宮内庁)が後征西将軍宮良成親王墓と治定するに至っています。

苦難を重ねた南朝最後の皇子、良成親王の御墓所を皆さんも是非訪れて下さい。

### 自動車

▶八女I.C → 国道442号 →  
観光物産交流施設「杣のさと」(約60分)

ACCESS

### 良成親王御墓所と矢部村に点在する良成親王ゆかりの文化遺産



お問い合わせ先

八女市教育委員会教育部文化振興課 福岡県八女市本町 647 番地 TEL:0943-23-1982

# 「良成親王御墓所」の文化遺産

## ①良成親王御墓所

良成親王が薨去された後、忠臣であった五條頼治は、その亡骸を密かに葬りました。その場所が、現在の良成親王御墓所と伝えられています。

五條家と村人は、その後600年間、御墓所を守り続けてきました。

今日、五條家当主は代々宮内庁陵墓守部を拝命し、その任を果たしています。

良成親王の御命日と伝えられる10月8日には墓前で大杉公園祭が執り行われ、市と地域住民で良成親王をしのんでいます。



良成親王御墓所

## ②三水の井

良成親王が晩年使用されたと伝わる湧水井戸です。井戸の側には八女教学の祖である江碕済による三水の井の説明碑が建っています。



三水の井と江碕済の碑

## ③皇族らが訪れた歴史を刻む碑

良成親王御墓所と宮内庁に認定された後、明治26年(1893)に北白川宮能久親王、昭和5年(1930)には閑院宮載仁親王が御墓所を参拝され、その他にも多くの皇族・軍人・教育関係者が御墓所を訪れています。藤棚のわきには記念碑が建てられており、参拝の歴史を刻んでいます。



## ④大杉公園

墓所周辺は公園として整備されました。境内に置かれた大杉公園と刻まれた石碑には大正6年(1917)に建つと記されています。

この石碑の裏側には「村人こぞりて公園を開く、村・議会がこれを助ける。大杉公園と命名する。忘れてはならない古の御所名である」と記されています。

また、公園内には、大きな藤棚もあります。4月中～5月上旬には見ごろとなります。良成親王御手植えと伝えられる「黒木の大藤」から足を延ばしてみるのもお勧めです。



大杉公園の碑

## ⑤御墓参道

御側川から良成親王の御墓所までの参道が整備されています。この参道は昭和5年(1930)に改修されたものです。

石が敷き詰められた参道は、市内一ともいえる状態の良い石畳です。道中には石橋や115段の趣のある石段が見られるとともに、改修の歴史を刻む石碑も迎えてくれます。



参道の石畳



参道改修の歴史を刻む石碑



参道の石橋